

今年度の9月より、「教理学特講」を担当させて頂くことになりました津田謙治と申します。大学院の研究室でご一緒させて頂いて頂きましたことを心より感謝申し上げます。

私は群馬県で生まれ育ち、東京の大学で4年間学んだ後、京都大学学院文学研究科のキリスト教学専修に進学しました。学部時代から教父の文献に関心があったのですが、本格的に教理の体系などを学ぶことができたのは、大学院の講義と、また大学院時代に留学したハイデルベルク大学の神学部においてでした。卒業論文から博士論文まで一貫して2世紀の異端者マルキオンを研究テーマとしてきたのですが、特に異端思想そのものに関心が強いということもなく、むしろ古代の教父たちと異なる端者たちの間で論争となつた議論

の方に興味をもちました。善なる神がなぜ悪を創造したとされるのか、父と子と聖靈を神としつつも一神教をどのように保持できるのかなど、教父たちがこれらの問題に真摯に向き合い、聖書の様々な箇所を論拠にしながら議論を組み立てていく様子は、千年以上の時を超えて私たちに強く訴えかけてくるように感じます。これら

の問題関心は、現在担当させて頂いている教理史の主要命題をおさえにあたって、重要な視点を提供してくれたように思います。

教会に通い始めたのは大学院に入つてからで、研究室の友人に勧められて日本基督教団の西陣教会に通い、同じ教会で洗礼を受けました。その後、群馬県の実家にしばらく戻っていたのですが、約10年前に福岡県にあるパプテスト連盟の大学に就職し、キリスト教学などを担当することになりました。その大学では、在職期間中の約半分ほどを宗教主任として働き、学

# 日本聖公会 ウイリアムス 神学館ニュース

2020年 第107号

The Bishop Williams  
Theological Seminary NEWS

日本聖公会京都教区  
発行・編集人: 黒田裕  
〒602-8011  
京都市上京区桜鶴町380  
TEL: 075-431-5406  
FAX: 075-431-5445  
williams@muc.biglobe.ne.jp



育活動に携わることができ、信仰の面でも充実した時間を過ごさせて頂きました。  
今年度になつて、出身研究室に戻る機会を与えられ、京都に戻ることになりました。引越直後は、コロナ禍によつて、多くの商店が閉まり、街路に人がいない京都を

(つだけんじ 本館教授 教理学特講)  
見て驚愕しましたが、神学館の授業の始まる9月には、少しずつ街の活気も戻つて来た印象を受けています。勉学に熱意溢れる神学生たちと向き合うのは毎週大きな喜びです。どうぞ宜しくお願ひいたします。

## 道を伝えて

詩篇119篇105節の「私の道の光」ということばで、これに連して信貴山にある見事な比喩を想起した。人生は常に暗闇というわけではないが、誰でも暗闇の中へ歩むべき道を見失う時がある。その時に一筋の光が遠くに見えれば、ひとはそこへと近づくで

奈良の信貴山の中腹に毘沙門天を祀つたお堂がある。このお堂の下に不思議な通路がある。通りに左手を壁につけたまま、ソロソロ歩いて行くと左に曲がる。暗闇をまたしばらく行くと左に曲がる。さらに進むと左手の壁の中から微かな光が出てるので、そこを覗くと、小窓の中に親指ほどの仏像が見える。暗闇の中をここまで何とか歩んできた者は、ここで仏様に出会つて礼拝するといふわけである(私が信貴山に行つたのはもう二十年くらい前の事なので、現在は少し仕掛けが違つてゐるようです)。

「道」ですぐに思い出したのは、

(勝村弘也)かつむらひろや  
本館教授 旧約学

## ウイリアムス神学館 体験入学

10月6日～8日、体験入学が行われました。今回は4名の方の参加があり、それぞれ感じたところのあつた3日間であったようです。参加された方々の感想を紹介いたします。

### 聖ガブリエル教会 浅海由里恵

今年の神学館体験入学に参加させていただきました。黒田館長はじめ、先生方、前田主事さま、神学生のみなさま、食事を準備してくださいました。神さつた教会の方々、本当にありがとうございました。

礼拝や授業を通して、聖書とは、神さまとは、などについて深く考える時間となりました。印象に残っていることは、「神さまと神祕的に出会う」という体験をとても大切にされていることでした。默想、礼拝、授業を含めた生活すべてで体系的に学び、どういう賜物が神さまから与えられているのかを深め、更に碎かれていくことを通して、自分はその召命に値するのかを必死で祈り求める日々が神学館での生活なのだと思います。

### 京都聖ヨハネ教会 平良子

ウイリアムス神学館の最初的印象は、なんと歴史ある建物だろうということでした。志が同じ人たちと学べたことは私にとっても新鮮で、興味を持ったのは辻先生の聖歌の講義で、神様を賛美する歌を歌えるのは嬉しいことでした。黒田先生の默想の講義は、雑念ばかり抱えていている自分にとつては興味深く、今後の生活の中でも取り入れたいと思っています。2日目の夜の懇談会の時に、自己紹介以外のことを聞かれ、私は自分が幼い時、イタリアに4年間行つて、帰つてからカルチャーショックを受けた話を初めて他人に話しました。みなさんうなずいて聞いてくれて嬉しかつたと同時に、自分の弱みを話すこ

と受け入れていただいたことを感謝いたします。黒田館長が「ここは学びの場であると同時に神学生に心に残っています。神学館での共同生活と教会で祈られているということの重要性を神学生の方々の背中を通して学ばせていただきました。非常に得難い経験でした。ありがとうございました。

### 芦屋聖マルコ教会 宮本憲

十月上旬の雨がちの京都でウイリアム神学館の二泊三日の体験入学に参加した。二〇年以上前に米国のある神学校に在籍していたので神学校という環境は初めてでないが、約八百の学生を擁するその神学校とは異なり、スタッフ、学生、体験入学参加者合わせても十五人だつた。だからこそかえつて、体験入学中、非常に濃密な充実した時を持つことができた。

プログラムは朝昼夕の祈りや実際の授業への参加の他、神学館での授業を含めた生活すべてで体系的に学び、どういう賜物が神さまから与えられているのかを深め、更に碎かれていくことを通して、自分はその召命に値するのかを必死で祈り求める日々が神学館での生活なのだと思います。

### 大阪城南キリスト教会 富田 学誠

今回の参加は、私にとつて2度目の体験入学でした。3年前にも一度参加させていただき多くの学びを与えたのは記憶に新しいのですが、今回はまた違つた出会いがたくさん貴重な3日間となりました。

印象に残つたのは、みなさんが「こんなはずじゃなかつた！」をテーマにお話しくださつた神学校生活でのあれこれでしょう。入学に至るまで、神学校に入つてからの学び、それには予想もしていなかつたことがたくさんあつて、けれども何れもが、神様のご計画のうちにすべてよく整えられていく

とで自分の中の殻を破れたような気がします。神様、イエス様の存在を強く感じた3日間でした。期間中、黒田館長、先生方、神学生の皆さま、およびお世話になつた皆さま、素敵に残つています。神学館での共同生活と教会で祈られているこの仲間に加わりたいと強く強く思いました。神様の御心ならば、うございました。この仲間に加わりたいと強く強く思いました。神学館長の指導の下に「レクティオ・ディヴィナ」を実際に体験した。私自身キリスト教靈性には非常に関心があるので、このような体験は大変貴重だった。

### 御心であれば、私も来年四月から神学館で学ばせていただくことになるだろうが、その時が待ち遠しく感じられた。



というお話は、神学の道に歩みだしてもなお、日々迷いのうちに皆さんのが召命の道を歩んでおられる姿がよく分かり、神学校生活をとても身近なものと感じることができました。

また、聖書に基づく観想・默想の授業も大変印象的でした。み言葉を咀嚼し吸収するプロセスを体系的に教えていただくことで、これまで我流だった個人の祈りの時間がさらに豊かなものへと新たにされる、とても貴重な体験でした。

日々の学びでお忙しくされている神学生や教授陣の先生方には、極上のホスピタリティで私たち体験生を迎えてくださったことに、心より感謝しております。

## 夏期実習代替プログラム 神学教育と靈性の形成

### 観想的な人へ

1年生 藤井和人

今年度予定されていた「愛の園」実習がコロナ禍のため残念ながら中止となり、急遽9月2日～4日に代替プログラムを行いました。報告と感想をお届けします。

ここでは、今回のプログラムの本体にあたるセッションⅡ、Ⅲについて報告します（※Ⅰでは各々の夏休み中のふりかえりと分かれ合い等が行われました）。セッションⅡでは、今後のウイリアムス神学館が目指すべきゴールとして、①本館の教育理念を基にした神学教育上の課題、②リーダーシップの神学についての分かれ合いが持たれました。またセッションⅢでは、「靈性神学」について、とりわけ「靈性(spirituality)」の語源と展開、「靈性神学」と神学教育の歴史的展開における両者の関係性について学びました。

これらのセッションのポイントとしては、将来の叙任の奉仕職・教会の奉仕職に向けて、礼拝・学び・生活を通して「観想的な人」へとなっていくというものでした。それは、"A long, loving look at the

real" という表現にもあるように、「継続的・永続的に靈的な小径を歩みつつ、神さまの愛のうちに、ほんとうの」と、「つまり「神さまと神さまにおける現実」を見つめていく」ということであり、そのことを通じて、牧会の現場において必要な身心を養っていくことなのだと学びました。さらに、そのような「靈性の形成」がこれまでの神学教育から分離してしまったという歴史的展開から、いかにこの「靈性の形成」を神学教育に新たに吹き込むことができるのかが一つの課題であり、また今後のウイリアムス神学館の大切なビジョンであることを認識しました。

### 「神学教育と靈性の形成」を受講して

2年生 佐藤充

残暑厳しい猛暑の中、9月2日から3日間の特別なプログラムが行われました。当初、夏休み明けは介護施設での実習が予定されていましたが、コロナウイルスの影響で施設実習が中止になりました。そこで、黒田館長が、アメリカにあるヴァージニア神学校の博士課程で



いました。同館長は導入で「ヴァージニア神学校の先生方からの獎めもあり “Christian Spirituality”（キリスト教の靈性）を專攻するようになり、靈性について改めて見つめなおした。」「今まで、神学教育の中で扱われる機会が少なかつた靈性神学について、学ぶ機会になつていています。」「靈性と學問的な神学の学びの統合が必要だと感じています。」と話されました。

私も神学館での学びをし、聖書やキリスト教についての知識が多少なりとも増えるにつれ、神様の存在が遠のいていくような感覚を覚えていました。そして、もっと神様の存在を感じたい、自分の靈性を整える術を学びたいという思いを持つていました。教理や聖書学といった「知的な学び」と共に、祈りや默想などの「靈的な営み」が両立されるとき、まさに「学びのVIAMEDIA(中道)」を往くことになるのではないかと思い、とても嬉しくなりました。

## 靈性の学びに期待する

1年生 高野 洋

職業とは生涯学ぶ仕事の一つであり、神学校で習得しなければならない事は、職務に必要な索引を知ることと考えています。この中の一つ、靈性の学びについては最近になりその重要性が再認識されているとのことです。夏に予定されていた実習がキャンセルになり、特別にこの学びのバックグラウンドを知る機会を頂きました。靈性の学びは、自分に語られている言葉を観ていくプロセスを実践していきます。そして、靈性の自覚を深めると次第に神そのものの存在を感じられるようになるとのことです。さて、私は夏休みの教会実習で「焦つている」というコメントを指導司祭から頂きました。この言葉を意識してみると、私は人と対話している時、答えや意見を求められた時などに、反射的に回答していることを認識しました。そしてその回答の内容の多くは、本意ではなかつたと気づきます。これは「焦つている」という指摘に該当しているのかもしれないのに、該当しているのかもしれないのです。靈性の学びを深めていくことは、自分の精神状態を安定に制御することにつながり、反射的反応を、思考と自分の実在とを結びつけてくれるのではないかと期待しているのです。

## 同窓会通信

ペルでの朗読を思い起したり…。

神学館を卒業後、横浜山手聖公会で3年、川崎聖パウロ教会・館山聖アンデレ教会・鎌倉聖ミカエル教会でそれぞれ6年、そして現任地の横浜聖アンデレ教会で3年目を迎えています。自身の成長が伴つていな

いことにため息が出ますが、神学館での学びは今でも支えとなっています。ギリシア語の語尾変化を森館長（のち主教さま）のお声で思い起こし、日々の聖書日課に触れながら、ふと

「ここで読み間違えたつけ」とチャ

白川学園を訪問して感じたこと  
2年生 梁權模

白川学園を訪問して感じたこと

残暑がまだ続いていた九月の初旬、代替プログラムの一環として京都市の社会福祉施設である白川学園へ訪問をしました。白川学園は、京都市北区の鷹峯に所在しているキリスト教系の社会福祉施設で、知的障害児の入所施設であると同時に発達支援や保育支援を目的とした事業が運営されています。施設を見学させていただき、見学後は理事長の脇田宣先生より施設内を見学させていただき、見学したことと認識していたかにあらためて気づかされました。私は今回の経験をきっかけとして、自分の今後の学業のことでの学びと神様の愛を学んでいきたいと思っております。

の補佐としてではなく、すぐにひとつ教会に遣わされることが殆どとなりました。事前の準備なく幼児教育や福祉関係の施設に遣わされることもあります。卒業と同時に学

（司祭 小林祐二こばやしゆうじ 横浜聖アンデレ教会牧師）

びが終わるのではなく、「教える役」であると同時に「教わる役」でもあり、絶えず自己変革、信仰の深化を促されるのが教役者であり、それをして立ち上がりてくるように感じることもあります。いわば料理の恐れず、むしろ喜びとすることがで出汁のようなものが（まだ？）枯れずに効いていると思われます。

昨今、卒業後、比較的大きな教会

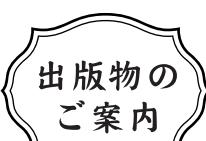
お与えくださる喜びのうちに日々を送ることができますよう、お祈り

き合つてこられたと振り返ります。

在学生、同窓生の皆さまが、主が

お与えくださる喜びのうちに日々を送ることができますよう、お祈り

申上げます。



教文館  
税込 1,870円

この秋、待望のウイリアムス神学館叢書第4巻、勝村弘也教授著、「今さら聞けない! キリスト教 聖書解説」が刊行されました。古代イスラエルの民の日常から現代にも通ずる旧約聖書の広大な世界が開かれるユニークな一書です。洗礼・堅信祝やXマス・プレゼントにもぜひひどうぞ。なお現在神学館では受注・発送の態勢がとれませんのでお近くの書店、キリスト教書店にてお求めください。直接本館に取りに来られる方はその限りではありません。